米国・ペンシルベニア州立インディアナ大学

教育学部 小中一貫教育コース 中学校主免専攻 英語専修 4年 矢野 裕人

〇留学先：米国・ペンシルベニア州・ペンシルベニア州立インディアナ大学（IUP）

〇留学期間：2025 年 5 月下旬～2025 年 12 月中旬(夏学期6月～7 月、秋学期8月～12 月)

〇渡航時の学年： 4 年次

・留学に至った経緯について：
私が留学を決意したきっかけは、高校卒業時に、宮崎大学出身の恩師から協定校への留学を勧められたことです。実際に、恩師も大学時代に協定校への留学をされており、私も自分の英語力を試しながら、実留学でしか得ることができない経験を積みたいと考えました。その後、大学入学時から国際連携課の方々や支援・指導教員の先生方に相談をさせていただき、計画を立てたり、準備を進めたりしてきました。
また、IUP を選んだ理由は、宮崎大学の協定校であることに加え、学部2年生の夏に 2 か月間の IUP との米国大学集中オンライン英語プログラムで ALI（American Language Institute、IUP 附属の語学学校）の授業を受けたり、現地の学生と交流したりする中で、次はこの大学で、実留学にステップアップしたいと考えたからです。

〇渡航前の手続について
・大学での手続について：
休学をしての私費留学であったため、学部の教務・学生支援係の窓口での休学手続き、日本学生支援機構奨学金の停止手続き、オンラインでの渡航届・帰国届が必要でした。また、留学資金として、日本学生支援機構の貸与型奨学金を利用したため、在学期間中に受給金額を増額する手続きを行いました。

・査証取得：
IUP の OIE（Office of International Education）と連絡を取る中で、J1 ビザを取得するように指示されたため、DS-2019、DS-160 オンライン非移民ビザ電子申請書、SEVIS I-901 料金の支払い証明書、資金証明書（日本の銀行で英語版を入手）、医療保険の加入証明書を準備し、2024 年 12 月に米国大使館でのビザ面接予約をしました。実際に大使館に面接に行ったのは4月上旬でした。その他にも、入寮するにあたって推奨されたワクチン接種証明書（必要なものとそうではないものがあるので、事前に確認してください。）や宮崎大学で発行可能である在籍証明書や成績証明書の英語版も準備する必要がありました。

・留学奨学金の有無（ ㊒ ・ 無 ）
（奨学金名称）教育学部・教育学研究科学生国際交流後援会の支援金（渡航一時金）

（応募申請のプロセス）
教育学部・教育学研究科の国際交流委員会の先生に相談する。

〇留学体験記：

<留学に必要な費用>

円安の影響もあり、夏学期で約 150 万円、秋学期で約 200 万円（授業料、寮費、食費（ミールプラン）といった大学生活に必要な費用）、渡航費として約 30 万円、その他雑費を加え、総額で約 400 万円かかりました。

<大学の環境>

夏は宮崎のような気温ですが、冬には雪が積もり、マイナス 11℃まで気温が下がります。（1・2月にはマイナス 20℃にもなるようです。）

夏学期は閑散としていた一方で、秋学期では忙しい日々が続きました。私が行った期間は創立150 周年ということもあり、町のメインストリートでパレードがあったり、お祭りで花火が上がったりしました。秋学期開始前には、毎年、大学のイベントとしてウェルカムウィークがあります。

様々な部活やサークルがブースを用意していたり、移動式観覧車がキャンパス内に来たりと、多くの人が想像するような「アメリカでの留学」を体感できます。年間を通して、OIE もピッツバーグやワシントン D.C.への旅行や Small Talk、Culture Cafe、Unity Day（各国の文化紹介）、Game Night といったたくさんのイベントを開催してくれいているため、すぐに友達ができるような環境でした。

学習環境としては、ALI では ACE Tutoring、OIE では Skill Zone、大学全体では図書館に Writing Center があり、留学生であっても手厚い語学面でのサポートを受けられます。大学院生やトレーニングを受けた学生がそれぞれの機関に常にいてくれるので、レポートの添削やプレゼンの内容の相談、練習相手を依頼し、フィードバックをもらうことができます。

また、付与される IUP のアカウントでログインすることで、大学の図書館や寮（フロアの共有スペース）、Skill Zone のパソコンを使用することができます。（自分のノートパソコンも必ず持参してください!）

<授業の内容>

夏学期は ALI で Oral Communication、Academic Literacy、Reading & Writing Seminar、Media Communication を受講し、大学教授への英語でのメールの出し方から効果的なプレゼンの方法、ノートテイキングの方法、Narrative Writing 、Evaluative Writing 、 Informative-Argumentative Writing、Reading Strategy について学びました。少人数での授業であり、毎回、丁寧なフィードバックをくださるため、英語力向上に繋がりました。また、私は英語専修であるため、教授がどのようにカリキュラムを構成しているのか、どのような教授法を用いているのかという視点でも学びを得ました。

この夏学期で学んだ内容は、秋学期の学部の授業で非常に役に立ちました。

秋学期は Bridge Program に参加しました。このプログラムでは、ALI の授業に加え、いくつかの学部の授業も受けることができます。ALI では、夏学期の発展的な授業を受講するとともに、Academic Reading や ACE Tutoring も受講しました。

また、学部の授業としては、ENGL418 Young Adult Literature を受講しました。学部の授業はこの1つだけでしたが、400 番台は学部4年生レベルであり、想像以上にハイレベルでした。（基本的に OIE からは 100・200 番台を受講することを推奨されています。）

この授業では、ENGL518 を受講している M1 の学生が半分を占めています。

その学生のほとんどがフルブライトプログラムというブラジルやインドネシア、フィリピンといった他国

で中高の英語の教師をされている方々が IUP に留学をしてきている形でした。
そのため、日本ではあまり聞かないような様々な国の英語教育事情を知れて非常に興味深かったです。計7冊の中高生（第一言語が英語である）向けの文学を読みながら、教授が指示した Article をほぼ毎週読んで、レポートを書き、ディスカッションをするという内容でした。
その中でも、3～4人のグループで割り当てられた Article を基に、これまでこの授業内で読んだ文学と絡めながら、クラスの前で 45 分間のディスカッションをリードするというものがありました。準備にも大変苦労しましたが、日本人の自分にしかできないような内容・切り口に仕上げることができました。

さらに、Project-based Learning を中心とした WebQuest という教材・授業計画作成にも挑戦しました。英語のみで中学生向けに授業プランを考えたことがなかったため苦労しましたが、教材となるような資料を探したり、ペンシルベニア州の Can Do List と照らし合わせてルーブリックを作成したり、初めてのことばかりで大変貴重な経験となりました。

＜生活環境＞
インディアナは IUP を中心に作られている小さな町です。
メインストリート（映画館や飲食店、コンビニ、市立図書館等があります。）までは徒歩で約 15 分、ウォールマートまではバスで行くことができます。インディアナ内であれば、学生証をスマホの専用のアプリに登録しておくと無料で乗ることができます。本数は多くはないですが、便利な交通手段です。
インディアナからは、高速バス（有料）を使用すれば、1 時間半でピッツバーグに行くことができます。国際空港や MLB の野球場等、様々な施設が充実しており、都会の街並みが広がっています。

キャンパス内の寮はスマホの専用アプリによるオートロックで、建物や自分の部屋に入ることができます。フロアの共有スペースには、給水所やビリヤード台、自習室等があります。部屋は2～4人のルームシェアや1人部屋、シェアルームであってもそれぞれに個室があるタイプ等、5・6種類から空き状況によって選択することができます。
キャンパス内には、PNC 銀行の支店があるため、秋（または春）学期であれば、銀行口座を開くことができます。（夏学期は閉まっているので、キャンパス外の支店に行くことが必要です。）夏であっても、キャンパス内にある3・4箇所ある ATM は使用可能です。

＜印象深いこと＞
大学の授業や数週間の夏休み期間中に行ったニューヨークへの一人旅も心に残っていますが、最も印象深いのは、出会った人々に恵まれたことです。
インディアナの人々はとても暖かく、留学生を快く受け入れてくれるような International Hospitality Center や Mack Park の Community Garden といった地域のコミュニティもあります。私もそこで開催されているイベントに参加したり、ボランティア活動に取り組んだりすることを通して、キャンパス外でも様々な人々と関わることができました。
また、教授や OIE の方々も優しく、常に丁寧に対応してくださるので、初めての海外留学であっても安心して行くことができると思います。そして、OIE のイベントを通して知り合った友達と放課後、毎日のように遊んだり、感謝祭の週にみんなで旅行に行ったりもしました。
彼らとは帰国後もよくメッセージでやり取りをしたり、ビデオ通話をしたりしています。

＜その他＞
クレジットカードが使える場所も多いですが、現金を使う場面もかなりあるため、期間にもよりますが、現金は多めに持参する方がよいと思います。
私は 1,000 ドルパックを持っていきました。

SIMは eSIM で問題ありませんが、可能であれば電話番号付きのものを見つけることができるとよいと思います。銀行口座の開設等で、持っておけばよかったなと思うときがありました。

交換留学ではなく、私費留学であれば語学スコアの提出は必ずしも必要ではありませんが、TOEFL iBT で54点以上を提出できれば、私のように Bridge Program で ALI の授業に加えて、いくつか学部の授業を取ることが可能です。詳しい条件等は、以下のサイトでご確認ください。

https://www.iup.edu/international/ali/admission/programs/index.html

〇今後、留学を希望する宮大生のみなさんへ

振り返ると、周囲と英語力を比較して落ち込んだり、日本とは全く異なる文化に戸惑ったりすることもあり、精神的に辛い時期もありましたが、諦めずに絶対にやりきるという意志をもち続けることで、最後まで走りきることができました。英語を学び始めた幼少期からの憧れであったアメリカへの留学を達成できて、また IUP に行くことができて本当によかったと心の底から思います。

これから留学に挑戦したいと考えているみなさんには、以下の3つのことを意識してほしいと思っています。

1つ目は、準備は計画的に余裕をもって行うことです。宮崎大学の講義や実習との兼ね合いや個々の経済的事情、世界情勢等、様々な要因で留学先や留学形態を変更しなければならない可能性もあります。留学に挑戦したい気持ちがあるならば、留学に行くまでに残された期間において、「今日」が最も早い日です。今すぐに情報収集から動き出しましょう!

2つ目は、充実した留学にするためにこだわりを持つことです。まずはどのような留学を考えているのか（目的、期間、費用等）、そしてどのようなこだわりがあるのか（私の場合であれば、英語圏、協定校等）をじっくりと考えてみましょう!せっかく莫大な費用を払って行くので、常に目標をイメージしながらやり遂げることが大切だと思います。

3つ目は、何事も積極的に参加することです。初めての場所で不安だからこそ、安全面に十分配慮しながら、最大限楽しむことを忘れないでほしいと思います。





